

令和5年度 鳥取大学入学者選抜試験問題

(後期日程)

小 論 文

(地域学部 地域学科 国際地域文化コース)

(注 意)

1. 問題冊子は、指示があるまで開かないこと。
2. 問題は2ページ、解答用紙は2枚、下書用紙は2枚である。
指示があってから確認すること。
3. 解答は解答用紙（縦書き）に記入すること。
4. 下書、メモ等を試みる場合は、下書用紙又は問題冊子の余白を利用してよい。
5. 解答用紙を持ち帰ってはならないが、問題冊子及び下書用紙は必ず持ち帰ること。

この部分については、著作権の都合上、HPで公開しておりません。

この部分については、著作権の都合上、HPで公開しておりません。

〈出典〉中川節子「第1章〈日本〉という想像の岸辺——キプリングと明治期の日英工芸デザイン——」（野田研一編著『〈日本幻想〉表象と反表象の比較文化論』ミネルヴァ書房 二〇一五年）

※キプリングの文章からの引用は、筆者が加納孝代訳『キプリングの日本発見』（中央公論新社 二〇〇二年）を参照しつつ、以下の文献を訳出したものである。

Cortazzi, Hugh & Webb, George. *Kipling's Japan*. London: The Athlone Press, 1988

※設問の都合上、原文の一部を省略し、書式を整えた上で適宜ルビと注を付した。

問一 傍線部「さすがの私も怒りを覚えた。」とあるが、それはなぜか。筆者の見解を二〇〇字以内でまとめなさい。

問二 本文からは、未知の対象と遭遇することが、自身の帰属先である共同体と、一個人としての自己との関係性を再考するきっかけとなり得ることが読み取れます。そうした葛藤を伴う、未知の対象との遭遇について、あなたが知っている事例、またはあなた自身の経験を、本文の内容を踏まえながら、八〇〇字以内で具体的に考察しなさい。